

性別で見る色の印象の違い

浅野 峻輔 元平 風人 村井 優介 平田 瑠

要旨

色の印象の違いを調べ研究することにより、人の色への印象を上手く利用して人間関係や恋愛においてより円滑で、よりよい人間関係を築くにはどうしたらよいかについて考えた。アンケート調査を実施し、色の持つ固有の印象や、性別による印象の違いなどについて分析を行った。

キーワード：色，暖色，寒色，濃淡，印象

1 序論

色には様々な印象がある。例えば赤い色を見たときに、暖かい、リーダーなどの印象を受ける。青い色を見たときには、冷たい、クールなどの印象を受ける。それに加えて、男女における色の好みは大きく分かれていることが多い。色の印象の違いについて、アンケート調査を行い、分析した。

2 仮説と調査方法

(1) 仮説の設定

男女が持つ色に対する印象には違いがあり、そこから次のような仮説を考える。

【仮説】

明るい、やわらかいといったプラスの印象を持つ色には暖色系が、暗い、かたいといったどちらかといえばマイナスの印象を持つ色には無彩色、濃い寒色系である。

男は赤，黄といったはっきりとした色を，女は桃，橙といった間色を好む。

(2) 調査方法

上記の仮説を検証するために、実際にアンケート方式で男女それぞれに同じ質問をし、色に対してどのような印象を持っているのかを調査し分析していく。

アンケートの項目は全部で8問である。前半の4問では11色の色を指定した印象の順に並べ替えるという形式で質問をした。

後半の4問では、赤(暖色)、緑(中間色)、青(寒色)の3色に加えて、この3色の濃淡を変化させた色を含め、各3色ずつ色を印象順に並び替えるという形式で前半と同じ質問をした。

<例> 図の色，茶，赤，桃，橙，黄，緑，青，紫，灰，白，黒の11色を

図の色を暖かいと思う順に並べ替えて下さい。

1番落ち着くと思う色を1つ挙げて下さい。

1番落ち着かないと思う色を1つ挙げて下さい。

3 調査結果

まずアンケート方式で集計したデータを男女別にまとめた。

「色の暖かさ」を問う問いでは大きな男女差はなかった。暖かい側に赤，桃といった暖色系が，冷たい

5 組 4 班

側に黒、白といった無彩色が多数挙がった。

また、色の濃淡の違いで見ると、男女とも暖色、寒色、中間色のすべてで薄いほど暖かく、濃いほど冷たいという印象をもっているという結果が得られた。

「色のやわらかさ」を問う問いでは男女共にやわらかい側に赤、橙が、寒い側には黒が多数挙がった。しかし、全体を見ると男性は色の順位について共通性が見られるが、女性は個人差によるところが大きいという結果になった。

色の濃淡の違いで見ると、男女ともに暖色、寒色、中間色のすべてにおいて薄いものがやわらかく、濃いものがかたいという印象をもっているという結果が得られた。

「色の明るさ」の問いでは男女ともに明るい側に黄、橙が、暗い側には黒が非常に多く挙がった。男女差で見ると、赤の印象が異なっていた。男性では赤は比較的明るい側に挙がったが、女性は中間点近くに挙がった。

色の濃淡の違いで見ると、男女ともに3色の濃い色のものが暗い印象を持っていた。しかし、明るい印象については、男性はあまりはっきりとした結果が出ず、女性は薄い色にそのような印象を持っているという結果が得られた。

11 色の中で男性が最も落ち着く色は緑、落ち着かない色は赤という結果となり、女性が最も落ち着く色は黄、落ち着かない色は赤という結果が得られた。

色の濃淡の違いの中で見ると最も落ち着く色は男女ともに薄いものを、落ち着かない色については、男性は濃いものを女性は原色という結果となった。

4 結論

どの問いでも暖色系がプラス側に多く、寒色系がマイナス側に多かった。特に桃はプラスの印象が強く、橙もプラスの印象を持っていた。黒を筆頭に無彩色はマイナスの印象が強かった。よって相手に好印象を与えるためには暖色系、特に桃か橙の色を身につけるようにすると、人間関係の面でより良い方向に向けることができるだろう。

また、無彩色はあまり相手を好印象で迎えることに向いていないと言えるので、式典やその他公の行事など、厳格さが求められるときに使えば、好印象を与えることができるのではないかと考える。

色の濃淡で見ると薄い色がプラス側に多く、濃い色がマイナス側に多かった。色の薄いもの、淡いものは相手の印象を良くし、やわらかく穏やかな人間関係を築くことに貢献することができると思う。

以上の考察から、人間関係をより良くする印象の良い色は、「暖色系であり強い色ではない薄い色」、具体的には桃が最も最適な色であると思う。

【参考 Web ページ】

・単色の印象評価－背景色と個人差に着目して－

(http://www.jissen.ac.jp/kankyo/lab-maki2/_userdata/thesis/Paper15.pdf#search=%E8%AB%96%E6%96%87+%E8%89%B2+%E5%8D%B0%E8%B1%A1)